

近畿病院図書室協議会第109回研修会

研修部

日時：2005年12月8日（木）10：30～17：00

場所：独立行政法人科学技術振興機構（JST）

情報提供部 西日本支所

プログラム：

1. 『医療の基礎知識』病院における医療ソーシャルワーク業務の実際
大阪府立成人病センター患者総合相談室
医療ソーシャルワーカー 川田美也子氏
2. 近畿病院図書室協議会会員所蔵雑誌目録
Web版の概要
株式会社サンメディアネットワーク事業部
大西幸雄氏
3. 「JMLA 相互利用マニュアル第5版2005年」
改訂点と「文献取り寄せ業務」の見直しについて
大阪府立母子保健総合医療センター図書室
中村雅子氏
4. JST JDream 新サービスについて
科学技術振興機構情報提供部
新サービス開発課 山口祐穂氏
5. 参加者交流

参加者数：会員20名、非会員1名

今回は『医療の基礎知識』として医療ソーシャルワーカーを取り上げた。最近では患者相談室が設置され、医療ソーシャルワーカーが配置されている病院も増えてきたが、実際の業務についてはなかなか知ることができなかった。川田氏のご講演では、いくつかの事例を踏まえて、具体的な活動について話していただいた。患者さんの悩みを聞き、その解決に向けて力を尽くすには、情報収集能力と的確な判断力が必

要であると実感できた。また、介護の問題、医療費の問題など、「明日はわが身」であるからには、医療をとりまく現実をしっかりと見ていくことが大切だと改めて思った。

今回の研修会では「文献」が主なテーマとなった。まず、相互利用のため当協議会で作成中の「近畿病院図書室協議会会員所蔵目録Web版の概要」では、前回の長野での研修会での説明にその後の状況を加えて、正式稼働までのタイムスケジュールについて説明していた。今回の研修会参加施設のほとんどが、インターネット環境が整っているとのことであったが、Web版稼働にあたり会員が作業しなければならない部分についての具体的な説明などもあり、Web版についての理解が深まったと思う（今回参加できなかった会員へは当日のレジュメに残部がありますので、必要な方は事務局までご連絡ください）。

第三席では、研修会に先立ち会員施設へ送付した「JMLA 相互利用マニュアル第5版2005年」をテキストに、改訂点の確認と業務見直しの提案があった。同マニュアル第4版からの変更点は大きく2点ある。第一に申込欄に書誌典拠、所蔵典拠が必要であること、第二に受付館情報が記載できるように、申込時には通知書欄（下段）にある館情報記載欄（従来は申込館情報を記載していた箇所）を空欄で送るようになったことである。書誌典拠記載には書誌事項の確認が必要であるが、つい怠りがちになる。なぜ必要かを理解し、今後の手順の中に忘れず組み込んで行かねばならない。文献取り寄せを行う時のマナーについては知っているつもりでも、な

かなか守れていないのが実状である。今回提案された見直し案を含め、永く相互利用活動を行うためのルールとマナーを遵守し、より良い相互利用環境の構築を図っていく必要があると思われる。

第四席の「JST JDream 新サービスについて」では、2006年4月から開始される JDream II の新機能についての説明をしていただいた。これからの病院図書館業務には医学情報データベースは不可欠である。利用者にとっては、図書館

利用の要ともなるであろう。その機能を知っておくことは担当者の専門性にかかわることである。今回の最新情報も、今後の図書館運営に有効に利用したい。

最後の参加者交流では、当日の参加者の自己紹介などを行った。初めて参加した会員も多く、これを機会に会員間相互の友好を深めていただきたい。

(文責：林 伴子/社会保険神戸中央病院)

